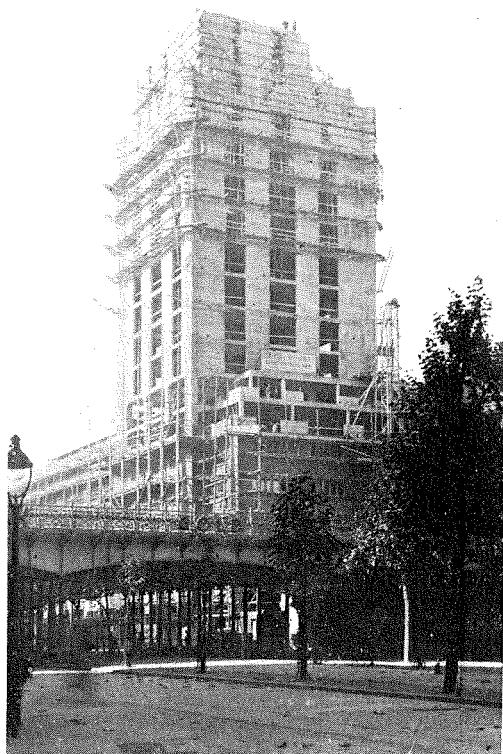


獨逸の勞銀に就て

最近の歸朝者で、その明晰なる頭腦に新知識を湛えて來た人に、内務技師宮本武之輔氏がある。四面楚歌の聲に終つた獨逸國民の現状は、慘憺と疲弊との連鎖の惱亂裡にあると聞いてゐた記者は一日、氏を訪れてその一端を伺つた。主に勞働者の勞働時間及勞銀程度に就いてである。

獨逸に於ける土木工事は餘り大した物はないが、この寫眞の工事に依るところ、勞働時間は八時間である、八時間と言ふのは歐洲共通の原則らしい。夏は日が長いので、八時間は働き得るが、北國の常として冬季は朝暉遅くして、日没が早い、さうした日短には八時間は働き得ないことがあるけれども、八時間が大體の標準である、その八時間勞働に對する報酬は、並の者で一週日、35馬克乃至40馬克である、1馬克は當時の市價で日貨60錢位に相當した、これをもつと細く言ふと一時間80片^{フランヒ}乃至90片となる、一片は1馬克の100分1だ、一週40馬克にして換算すれば我が金24圓となる、それから、コンクリートの天井などに、大きなコテで石膏を塗るものがある、日本の左官に匹敵するもので、この仕事はそれだけ勞力が多くなるから隨つて勞銀も良く、一週 80馬克乃至100馬克、一時間1馬克80片乃至2馬克20片である。夜間電燈などを灯して出來る工場内の勞働は時間を長くやる、ルール地方のボームのアイコフ機械製作工場では、一日の勞働時間十時間である、この報酬一週日40馬克乃至50馬克、これを英米に比較するところの差が生ずる。

英國マンチェスターのジョンソン鐵筋混凝土株式會社の勞銀の程度は、勞働時間夏季八時間半、冬季八時間に對し、熟練な者で一週3磅15先令、日貨にして45圓である、不熟練な者は一週2磅15先令、日貨33圓である、これを獨逸の普通勞銀に比較するところ33圓對24圓だから9圓の差となる。英國との差はまだしもあるが、更に米國と比較する時は甚だしい差となる、米國レーモンド混擬土杭株式會社の例をあけると、八時間に對して一週22弗50仙



獨逸ケルンに於ける鐵筋混擬土十七階建築
大正十三年十月撮影 獨逸ディツカアホフ、ウント、カキドマン株式會社ケルン支店施工、スラグセメントを使用す。

Construction of Seventeen Story
Reinforced Concrete Building
in Germany.

當時日貨にして56圓25錢である、これは普通の勞銀である、これに獨逸の24圓を比べるとその半ばにも充たない。尤もその間に多少の生活程度の差はあるけれども、而も此等の指數は現今獨逸の勞働者が如何に薄給の下に働いてゐるかを示す一例となるのであらう。

即ち疲弊の境にある獨逸國民が、賠償のため復興のために孜々として努力を續けてゐることがよくわかるのである。(宮本武之輔氏談)